

共生、学びは無限大を合言葉に

「心のバリアフリー」推進隊

齊藤 遥 さんに聞きました！



「心のバリアフリー」推進キャッチフレーズ

す。また、バリアフリーへの理解を深めてもらうために、企業や団体に訪問し、福島市での取り組みを説明する活動をしています。

参加したきっかけは？

通っている大学の職員の方からの

「参加してみない？」との声掛けがきっかけでした。以前から、福祉の分野に興味を持っていて、将来的にも福祉に関わる仕事に就きたいと考えていたので、自分の学びにつながると思い参加しました。

参加してみた感想は？

人前に出て何かをするということがこれまでなかったのでも、とても良い経験になりました、率直に楽しかったです。しかし、私の友人なども含めて、心のバリアフリーという言葉を知らない方も多く、まだまだ

活動内容は？

心のバリアフリーの考え方をたくさんの人に知ってもらうために、福島市と協力して、イベントでチラシや缶バッジを配ってPR活動をしています。

心のバリアフリーとは？

みんなが安心して暮らせる優しいまちにするために、一人ひとりが障がい者や高齢者、小さな子ども連れの方など、支援を必要とする方々への理解を深め、みんなが支えあうことができる心を持つことです。

だ認知が進んでいないことも実感しました。

どんな社会になってほしい？

障がいがある方など、困っている人に声を掛けづらいと感じる人はたくさんいると思います。そんな時でも、挨拶ぐらい気軽に声を掛けられて、万が一、手助けが必要でなかったとしても、気軽に断れるような雰囲気になればと思います。そのためにも、まずは心のバリアフリーという言葉を知っていただきたいです。



▶福島駅で行われたイベントに併せてPR活動を実施。たくさんの方が足を止めてくれました。

We Love ふくしま!

第60回  
「ふくしまシティ  
ハーフマラソン」



5月21日、初開催のふくしまシティハーフマラソン。色とりどりのウェアに身を包んだ4千人超の人波が途切れることなく、街なかを駆け抜けました。前日、中心部のホテルは満室、温泉旅館にも関係者が多数宿泊し、街なかの飲食店は行列ができる賑わいでした。スポーツによる新しい景色に、コロナ越えへの予感を感じた方も多いのではないのでしょうか。

初開催だけに、トイレや給水の紙コップの不足、おもてなしパークでの混雑など至らぬ点がありました。参加者などの声をしっかり受け止め、改善していきます。

非常に好評をいただいたのが、おもてなしです。企業・団体から想定以上の協賛を頂戴し、市民は、ボランティアとして活動したり、沿道で温かい声援を送ったりしました。15もの応援隊が激励パフォーマンスを繰り出すのは異例の多さで、こんなにおもてなしあふれるハーフの大会は他にないでしょう。ご協力に心から感謝いたします。

4割以上は県外からの参加者でした。今後も、おもてなしを最大の特徴とした大会に磨きを

掛け、県内外から多くの方を呼び集め、福島市の魅力を発信する象徴的な大会にしていきたいと思えます。

今後の狙いとしてもう一つ、健脚文化の形成です。市を代表する福島わらじまつりの大わらじは、健脚のシンボルです。大わらじにちなんで、福男福女競争や信夫山パークランニングが開催されてきましたが、ふくしまシティハーフや各種ウォーキング大会を絡め、健脚のまちをつくりたいと思えます。

今回、「初開催の記念」と普段は走らないような方まで参加されたようです。今後も、少しずつ歩き・走って、ハレの舞台として、次回以降もぜひご参加ください。また、今回、参加者の女性比率は約2割。今後も、ランニング教室などを実施して、女性の意欲を喚起し、後押ししていきます。

福島市は、健脚の神 羽黒神社の麓に広がるまち。走らずとも、子どもからお年寄りまで、日々歩くことで健康を増進し、「健都ふくしま」を創っていきたいと思えます。

福島市長 木幡 浩